第四講　近代化論

開国以降に日本が西洋文化を受容していった過程も、実際は単なる西洋化ではなかったし、模倣という概念でとらえることのできるような一面的なものでもない。いわば免疫システムが異物を中和・解毒させるように、日本人は西洋要素に対して抵抗しつつ取り込んでいったのである。

かといって、和魂洋才という言葉が与えるような意味で、伝統的精神は守りつつも小手先の技術だけうまく輸入するという、二段構えの形態で日本の近代化が推進されたわけでもない。福沢諭吉の「脱亜論」で使命とされた入欧は、西洋人の模倣をするというような浅薄なことでは決してなかった。『文明論之概略』において福沢は、「譬(たと)へば近来我が国に行はるる西洋流の衣食住を以て文明の兆候と[A]なすべきや。断髪の男子に逢(あ)ひて、これを文明の人と云ふべきや。肉を食ふ者を見て、これを開化の人と称すべきや」と述べて、西洋の風俗習慣の模倣に汲々(きゅうきゅう)としている開国当時の知識人を痛烈に皮肉っている。

丸山真男が解説しているように、福沢の考えている「文明」とはこのような表面的なものではなく、文明化していく過程のことである。英語の表現を例にとるとわかりやすいが、civilizationという名詞はcivilizeという動詞から派生しており、したがって、「文明」とは、(一)文明化した結果としてすでにできあがってしまった状態と、(二)文明化という動的な過程、との両方を含意しているが、より重要なのは後者なのである。あるいは次のようにいうこともできるであろう。具体的な形をとって現れる個別の文明を真似るのではなく、その背後に隠れている文明化の普遍的な法則性・原理を学べ、と福沢は説いているのである、と。和魂洋才などという単純な発想とは訣別(けつべつ)し、文明の外形を取り入れるのではなくその精神の受容に努めよ、と主張しているのである。

福沢自身の言葉によると次のようになる。

> 外国の文明を取りて半開の国に施すには、固(もと)より取捨のよろしきなかるべからず。然(しか)りと雖(いえ)ども、文明には外に見(あら)はるる事物と内に存する精神と二様の区別あり。[B]外の文明はこれを取るに易く、内の文明はこれを求むるに難し。国の文明を謀るには、[C]その難を先にして易を後にし、難きものを得るの度に従ひてよくその深浅を測り、すなはちこれに易きものを施

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

して、正しくその深浅の度に適せしめざるべからず。

これは今日の表現に翻訳するならば、西洋化ではなく近代化をめざせということである。

明治以降の日本の歴史は、ある意味で、西洋に追いつき、追い越そう、と努力してきた歴史であるということができようが、もし日本がめざす目標が単に西洋文明を模倣することであったならば、論理上の問題としても、どのようにして西洋を越えることができるというのだろう。西洋化の度合いを基準とするならば、どこまでいっても西洋以上に西洋的であることは原理的に不可能である。西洋を追い越した（？）瞬間から今度は必然的に西洋から離れてしまい、「非西洋化」が開始する道理ではないか。論理的に考えて、他の個人あるいは社会を超えるというからには、二人の人間あるいは二つの社会を比較する外的基準がなければならないが、この基準が日本人が感じとった「近代性」とでも呼ぶものであったのである。

西洋文明はその「近代」の一地方形態に過ぎない。無意識的にではあっても、このようなD「近代性」と「西洋性」の乖離（かいり）がなされてはじめて、近代性という価値基準にしたがって日本が西洋を超えることが、理屈のうえでも可能になるのである。

（小坂井敏晶の文による）

問１　傍線部Ａ「なすべきや」の「や」の説明として、適当なものを次から一つ選べ。

ア　命令　　イ　疑問　　ウ　反語　　エ　詠嘆　　オ　禁止

問２　傍線部Ｂの具体的な例示となっている五文字の語句を、これ以前の文章から二つ抜き出せ。

問３　傍線部Ｃの内容として、適当なものを次から一つ選べ。

ア　外国の文明を学ぶのは実はやさしいことであり、自国の文化の深さをよく見極めることこそ、難しいけれども大切なことである。

イ　まず外国文明の根本的な精神を学んでから、その理解の程度に従って、具体的な事物を適度に移入するのがよい。

ウ　根本的な精神の問題が重要だが、最初から内面的な難しい文化を学ぶのではなく、わかりやすい事物から始めるべき

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

である。

エ　外国の難しい文明を学ぼうという硬直した姿勢ではなく、内外の調和がとれるように難易を工夫する、柔軟な態度が必要である。

オ　内面的で難しいことが深いものであり、外面的でやさしいことが浅いものであるという理解は、不適当である。

問４　傍線部Ｄの内容として、適当なものを次から一つ選べ。

ア　近代性という価値とは異なる、日本人自身の感じる基準によって、西洋と日本を比較すること。

イ　近代化と西洋化は、関連性の薄い別々の現象なので、それぞれについて分けて考えてみること。

ウ　西洋は近代化を達成したが、他の地方も各々なりの近代化を達成したはずだという前提に立つこと。

エ　西洋化も近代化の一つの姿だが、それとは別の形の近代化というものもあると考えること。

オ　近代化や西洋化が何よりも大切だという発想を捨て、独自の道を探ること。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　知識モノ解説

文学史

●福沢（澤）諭吉＝ふくざわ　ゆきち（一八三五～一九〇一）
↓慶應義塾の創始者・主著『文明論之概略』『学問ノススメ』
……平等主義を説いたものと誤解されている

●丸山真男＝まるやま　まさお（一九一四～一九九六）
↓政治学・日本政治思想史　元東大法学部教授・著書『日本の思想』

語句

和魂洋才＝わこんようさい↓精神は日本のまま、技術は西洋に倣う／和魂漢才　和洋折衷

汲々＝きゅうきゅう↓そればっかり・一つのことにとらわれる

訣別＝けつべつ↓きっぱりはっきり分かれる・区別すること

近代↓前近代↓伝統的な封建社会・中世・因習的な社会に対するもので、理性的、合理的、科学的、個人主義的なものをよしとする時代（「現代」から検証、批判されることもある）

反語＝はんご↓形式的表面的には疑問形だが、その真意は強い否定・皮肉・アイロニー・イロニー

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）メンエキ力の向上　①逸　②免　③綿　④面　⑤棉

（イ）シュシャ選択する　①捨　②舎　③赦　④謝　⑤遮

（ウ）センパクな知識　①拍　②白　③博　④薄　⑤迫

（エ）嵐のチョウコウ　①高　②校　③効　④功　⑤候

（オ）手本をモホウする　①放　②倣　③法　④報　⑤奉

（カ）ハセイ語を調べる　①生　②正　③成　④性　⑤製

（キ）フヘン的な法則性　①編　②偏　③遍　④辺　⑤篇

（ク）外国語をホンヤク　①本　②翻　③奔　④汎　⑤叛

（ケ）理想と現実のカイリ　①離　②理　③里　④裡　⑤吏

（コ）リクツをこねる　①堀　②掘　③靴　④屈　⑤窟

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　近代化論

《本文の対比構造》

主役

筆者の見解＝日本の開国や文明開化は「西洋化」ではなく「近代化」である＝精神レベルで文明化していく動的プロセス重視・福沢諭吉の文明論・丸山真男の解説

主な対比

敵役

一般論＝西洋の模倣・表面的外形的文明化・文明化の具体的な成果を輸入・和魂洋才

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《知識と文脈理解にもとづく傍線部説明・選択肢》

傍線部と同一内容の表現が直後に繰り返されています。すなわち「文明の人と云ふべきや」「開化の人と称すべきや」という具合に。さらにそれらをまとめて「当時の知識人を痛烈に皮肉っている」とあります。これが決定的根拠。ウ「反語」が正解です。つまり**形式上は疑問形でありながら、実質的意味は強い否定**なのです。こういう表現を反語・皮肉・アイロニー（イロニー）といいます。

問２《傍線部言い換え・抜き出し》

「外の文明」とは、今回敵役の「表面的な西洋の模倣」のことです。国内文明に対する外国文明の意味ではありません。しかもその具体例にあたるものを抜き出します。「五文字」「二つ」という条件も重大なヒントです。問１の関連個所で皮肉（批判）られていた「断髪の男子」「肉を食ふ者」が該当します。

問３《傍線部説明・選択肢》

「その難」とは直前部の「内の文明」すなわち、西洋文明の精神レベルの受容のことです。これを日本国内のことだと誤解を誘う選択肢がアの「自国の文化」です。したがって、記述に反する誤りです。なお、傍線部は、この難しい精神レベルの文明受容を「先にして」と語っています。この点から「最初から内面的な難しい文化を学ぶのではなく」としてしまったウも、「外国の難しい文明を学ぼう～ではなく」としてしまったエも記述に反する誤りです。さらに傍線部は、具体的な形ある「外の文明」はいつでも船便で輸入し港に陸揚げできるという意味で容易に受容できるから「後にし」と表現しています。その後、精神レベルの受容の進み具合が深いか浅いか見計らって具体物を輸入するのがよいとしています。オの「内面的で難しいこと」イコール「深いもの」、一方「外面的でやさしいこと」イコール「浅いもの」という分類は記述に反しています。その点でそういう「理解は、不適当」としている点には矛盾はありません。しかし、そもそも設問条件そのもの、この傍線箇所の説明にはなっていません。ちょっと複雑でしたが、イが正解です。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問４《傍線部説明・選択肢》

傍線部の説明であると同時に、今回の文章全体の理解にかかわる設問です。まさに《本文の対比構造》として図示した通りの分類を求めているわけです。また傍線部直前の「西洋文明はその『近代』の一地方形態に過ぎない」とは、西洋が「近代化」そのものであったり、「近代化」というゴールに到達してしまっているのではなく、「近代化」が進んではいるが一つのあり方、いわばユーラシア大陸の西のはずれに位置する一つの地域なのだ、ゆえに他地域・他国も「近代化」を目指しうるという主旨です。アやオは、あいかわらず「内の文明」を日本国内と誤解したものです。記述に反する誤りです。ウは「達成」が誤りです。西洋も、他の地域も「達成」はしていません。目標として、それぞれ進度の違いはあっても、ゴールインせず、精神レベルの文明化の過程にあるのです。したがって記述に反する誤りです。イは「関連性の薄い」が誤りです。関連性は大いにあります。誤解されて同一視されるほどのものです。だからこそ、慎重に区別が必要なのだというのが本文の趣旨です。したがって、これも記述に反する誤りです。正解はエです。

模範解答

問１＝ウ　問２　断髪の男子・肉を食ふ者（順不同）　問３＝イ　問４＝エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第四講

（ア）②　（イ）①　（ウ）④　（エ）⑤　（オ）②

（カ）①　（キ）③　（ク）②　（ケ）①　（コ）④

解答漢字一覧

（ア）免疫　（イ）取捨　（ウ）浅薄　（エ）兆候（徴候）　（オ）模倣

（カ）派生　（キ）普遍　（ク）翻訳　（ケ）乖離　（コ）理屈

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。